

第3回南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会会議録（要点記録）

[日時] 令和3年3月19日（金）開会：午後7時00分 閉会：午後9時00分

[場所] 南砺市役所 別館3階 大ホール

[出席委員] 14人

堀田 朋基 委員長	館 英二 副委員長	藤原 洋 委員
梨谷 一男 委員	齊藤 哲也 委員	林 裕一 委員
近川 利行 委員	水戸 明美 委員	高瀬 まり 委員
砂田 英夫 委員	二野井 朋 委員	井上 明世 委員
山田 剛 委員	大河原 晴子 委員	

[欠席委員] 0人

[事務局員]

教 育 長	松本 謙一	教 育 部 長	村上 紀道
教 育 部 次 長 生涯学習スポーツ課長	鵜野 幸男	教 育 総 務 課 長	氏家 智伸
教 育 総 務 課 副 参 事	高田 公美	生涯学習スポーツ課 主幹(スポーツ係長)	池田 貴志
生涯学習スポーツ課 主 幹	石田 雅人	教 育 総 務 課 幹	川口 雅也
教 育 総 務 課 副主幹(学務係長)	野村 大輔		

[傍聴人数] 2人

[協議事項等]

1. 開会 委員長あいさつ

2. 報告事項

(1) 各委員から寄せられた意見や質問等について

3. 協議事項

(1) 部活動の拠点校化について

(2) その他

4. 次回協議会の日程

5. 閉会 副委員長あいさつ

[会議の概要]

○開会

教育総務課長 ただいまより、第3回南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会を開会いたします。

1. 開会 委員長あいさつ

委員長 みなさん年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は、部活動のあり方検討委員会第3回目ということで、検討委員会としても方向性をまとめたいと思います。

みなさんの活発な意見交換をお願いします。

2. 報告事項

(1) 各委員会から寄せられた意見や質問等について

委員長 第2回の委員会の後に、各委員のみなさんからたくさんの意見をいただきました。事務局の方でそれに対する回答をまとめてもらいました。事務局から説明をしてください。

事務局 【資料1の説明】

委員長 今の説明について何かご意見ありませんか。

3. 協議事項

(1) 部活動の拠点校化について

委員長 メインテーマの「部活動の拠点校化」に関して、事務局から説明をしてください。

事務局 【別冊資料、資料2説明】

委員長 今の説明について何かご意見ありませんか。

委員 質疑なし

委員長 各委員お一人お一人からご意見をいただきたいと思います。その前にB案とC案の違いをもう一度説明してください。

事務局 どちらの案も各学校の生徒数に応じた部活動数となるように、部活動数を減らします。B案は、他の学校の状況を加味せず、学校ごとに整理をしていく方法です。前回のシミュレーションで行ったように、人気のある同じような部活動だけが残り、市全体を見てみると、結果的にどこにも残らない競技や活動が出てしまいます。C案は、生徒数に応じて各学校に設置する部活動数を減らすという点では同じですが、市全体を見て、全ての競技や活動をどこかの学校に配置できるようにコントロールする方法です。

委員A(学識経験者) 各委員の選出母体でのご意見があると思うので、それぞれの母体の意見を聞いた上で、協議したらどうでしょうか。

委員長 それぞれの立場からのご意見を聞きたいと思います。

委員E(スポーツ少年団) 第1回検討委員会の後、本部役員会を開催しました。そこで大きく4つの意見と質問がありました。一つ目は、「以前の資料では部活動設置の基準

人数が3学年合わせたものとなっているが、2学年でもできるものはできるだけ残してほしい」、二つ目は、「指導者の中には体育協会に属さない方もいるので、現状を把握したうえで、地元の指導者を選出してほしい」、三つ目は、「そもそも『部活動のあり方』という言葉の意味を考えて検討してほしい」、四つ目は、「検討委員会の進捗状況が、現場の先生方に伝わっているか」という意見がありました。

委員長 指導者をしっかりと把握するということは、大切なことだと思います。

委員B（小学校長会） 小学校の児童の活動にはスポーツ少年団の他に、小学校のクラブ活動として合唱や管楽器のクラブがあります。これらのクラブは、中学校の部活動と同じような取組をしています。管楽器クラブでは、教員が中心となるのではなく、地域の指導者の方が中心となって指導をしていただく方針で、校区以外の住民の方にも声をかけて指導をお願いしています。これは、中学校部活動の拠点校化と同じような動きをしていると考えています。合唱クラブでは、その学校以外の児童も参加して、発表会等へ出場している事例があり、小学校版のミニ拠点校で取り組んでいるということになると思います。

スポーツ少年団でも、他地域の児童を受け入れて活動をしているという事例もあります。

委員長 合唱や管楽器クラブでは、既に拠点校化の形で活動を展開しているという事例があるということですね。

委員H（市P連） 親としては、拠点校化になった場合の交通手段が心配です。

委員I（市P連） お子さんをお持ちの親からは、いつ、どうなるのか、と聞かれます。特に小さなお子さんをお持ちの保護者が心配しておられます。自分の子供は一体どの中学校に進学すればよいのかと聞かれました。会議録はホームページに掲載されていますが、PTA役員以外の保護者は知らない方が多いので、もう少し発信してほしいという意見がありました。

委員長 将来の人口減少、指導者の高齢化は避けられない事実であり、この委員会として大筋の方向性を示さないと、次のステップに進めないとと思います。そういう視点でもみなさんからの意見もいただきたいと思います。

委員L（公募委員） A案、B案、C案の3つの中では、A案は選択肢としては考えられないと思っています。部活動指導員として指導している中学校では、部によって子供たちの部活動への意欲に差があります。指導者がいないという問題もありますが、意欲を感じられない部活動の取組を見ていると、将来何かの役に立つのだろうかと心配になります。部活動によって環境に差が出ていることに不安を感じ、今すぐにでもどうにかしてあげたいという気持ちでいます。

保護者からは、家庭の事情で送迎ができない場合、継続していた活動を続けられなくなるので、その課題をクリアできるようにしてほしいという意見が多かったです。

他にも、子供たちが安心して選択できるようにしてほしいという意見もありました。

これらのこととも、みなさんと一緒に考えられたらいよいと思います。

委員K（公募委員） C案の全てのスポーツ・文化を残すことができるという部分に共感を得ました。指導者として、これまでいろいろな地域で指導をしてきましたが、それぞれの地域で、その競技を守っていこうとする指導者がおられることを感じてきました。

部活動を整理するときに、いきなりC案は実施できないと考えています。C案は、人気のある部活動も無理矢理整理するということになるため、いきなりは難しく、ある程度、段階を踏む必要があると思います。地域でその競技を支えていた指導者の気持ちなども考えて、今ある部活動を残しつつ、C案に移行できるとよいと考えています。

委員長 段階的に整理する方法も踏まえて、この委員会で提言する内容になると思います。

委員G（学校吹奏楽連盟） 先程、スポーツ少年団の方から、現場の先生方にどれだけ伝わっているのかという質問がありましたが、教職員組合を通じて、各学校へ会議録のホームページでの公開をお知らせしたり、ご意見を聞いたりしています。「拠点校化によって教員の働き方がどうなっていくのか」、「部活動を学校から地域へ移行しようとしていることに逆行しているのではないか」、「拠点化されたときに教員の異動はどうなるのか」などの意見があります。C案になったときに、子供たちがやりたい部活動がある学校に通うためにはどうしたらいいのかも併せて考える必要があると思います。なんバス等、保護者の送迎以外の方法で子供たちが通学しやすい環境を整えることが大人の役割だと考えています。

委員C（中学校長会） 生徒数が減少して部活動数を減らさなければいけないことは、以前から分かっていましたが、一人でも二人でもその活動をやりたいという子供がいれば、地域や保護者からの要望があり、残してきたというのが現状です。合理的で効果的な部活動を進めることに加えて、教員の働き方改革の問題も出てきています。教員の勤務は16時40分までですが、部活動は17時30分まで行っており、生徒の下校を見届けると17時45分になります。部活動だけが毎日の放課後の業務ということではなく、他にも教材研究や成績処理、行事の打合せ等があり、その業務が部活動終了後になってしまいうのが現状です。先生方には、可能な限り早く帰宅してもらい、元気な姿で子供に接することで、子供たちも元気になる好循環をつくっていきたいと考えています。どうしたら実現できるかを考えたとき、一つの部に2人、3人の顧問が配置できると役割分担が可能になります。

子供たちにとって大切なことは、充実した部活動ができることなので、その点を加味して方向性を決めていただきたいです。

B案はこれまで学校ではできなかった方法なので、皆様のお力もお借りしながら、拠点化して整理していただくのが、ありがたいと思います。いろいろな課題もあるので、その課題について皆様のお知恵を拝借しながら、うまく進められたらと思っています。

部活動指導に一生懸命携わっていただいている先生方がたくさんいることもお伝えします。

委員長 つきつめていくと、C案の方向になりそうですが、クリアしなければいけない課題もあることも見えてきました。指導者の確保も課題だと思います。

委員E（スポーツ少年団） 先日、4月から中学1年生になるお子さんのお母さんから、「やりたい競技の部活動が進学する学校にはないので、どこかでできないか」という相談を受けました。早く方向性を出して、例えばC案だったら、その子供たちの夢をかなえることができたのかなと感じました。

一部の競技・種目が南砺市から消滅するのは避けるべきだと思います。人気のある部活動が多く残っていくのは、仕方のないことかもしれません、南砺市内に1校しかな

い競技は、できるだけ残し、南砺市の子供たちに選択肢を少しでも多く残してあげるためにには、C案がいいと思います。

委員F（スポーツ推進委員） スポーツ推進委員の中では、地域や年齢、立場によって温度差があり、具体的な意見としてまとまりませんでした。小学校5年生の児童に、「拠点校になったとき、同じ競技をしていない友達と離れてまで別の学校に進学するか」と聞いたときに、「それは難しい」という回答でした。友達が同じ競技をしている人ばかりとは限らないので、簡単に拠点校化ということにもいかないのかなと感じており、もう少しよい方法はないのかと思います。

委員K（公募委員） 地域に指導を任せ、拠点化して部活動の充実を図るのは理解できますが、指導者のスキルアップの方法について何か考えはありますか。

事務局 指導者公認資格の取得の機会や研修会の開催等について、市としてもサポートする必要があると考えています。

委員I（市P連） 子供に、「自分のやりたい部活動が、進学する学校に無かつたらどうするか」と聞きました。「他の学校へ行ったら別の友達ができると思うけど、6年間一緒に過ごした友達との関係も崩したくないので、自分が進学する学校で、別の部活動をがんばる」と答えました。他の保護者の場合も、校区の中学校にある部活動から選ぶ人が多いと思います。市P連の中には、旧村部の学校は始めから選択肢はないのに、選択肢があるだけでもいいとの意見もありました。

委員C（中学校長会） 部活動にそこまで熱心ではない生徒もいるので、「文化部」や「運動部」というように、広く文化やスポーツに親しむことができる部活動の設置もいいのかなと思います。

委員長 選択肢として、そのような部活動も必要だということも理解できます。

委員J（公募委員） 一つの活動に特化してがんばりたいお子さんは、費用がどれだけかかるかも、部活動に関係なくクラブチーム等でがんばられると思います。どれだけの保護者が、部活動で学校を選択させるかを考えたとき、そんなにいらっしゃらないと思います。部活動指導員が配置できている競技や活動を加味して、部活動の配置をしていくべきだと思います。

委員長 拠点化するとしたときに、一つの手段としてのご意見ですね。当然、指導者確保の問題があります。

委員D（総合型地域スポーツクラブ） 地域への移行が國の方針として示されていますが、現段階で現在の総合型地域スポーツクラブの人員で運営するのは難しいと考えています。その場合は、それなりの人員の確保の面で資金が必要です。ただ、そのような國の動きの中で、総合型地域スポーツクラブとしてもどういうことができるのかを考えていかなければいけないと思います。

子供に意見を聞いたとき、「部活動のために進学する学校を変更することは考えず、進学する学校にある部活動から選択する」と言っていました。多くの人は同じような考え方だと思います。できるだけ早く結論を出して、情報を公開していくことが重要だと思います。

副委員長 体育協会として各協会がどれだけ支援・協力ができるのか意見を吸い上げたいと考えています。

委員A（学識経験者） 人数が多く集まる部活動の特徴として、「そんなにがんばらなくてよい」、「自分ががんばらなくても他の人に迷惑をかけない」ということが挙げられ、これから部活動は、そのような面も増えてくるのかなと思います。A案、B案、C案それぞれ魅力があると思います。C案はすべてを解決してくれるというわけではありませんが、一番可能性を秘めていると思います。これから南砺市を任せる子供たちのために、方向性を決め、どのようなスケジュールで、誰がどんな考え方で拠点校化していくかということを決めていけば、市民の方にもご理解いただけるのではないかと思います。

委員長 この検討委員会としてはC案で進めるという方向性でよろしいでしょうか。

全会一致

事務局 4月下旬から5月上旬にかけて、指導者や保護者等に拠点校化について説明をする場を設けたいと考えています。その後、各競技・文化団体に指導の可否等について聞き取りを行いながら、また、子供たちの意見を聞く機会も設けながら進めたいと考えています。令和3年度中には、拠点化による部活動設置の具体案を決め、周知したいと考えています。設置されなくなる部活動の募集は、令和4年度から停止し、段階的に集約したいと考えており、最短で、令和6年度からの完全実施を考えています。

委員C（中学校長会） 例年2月初旬に、次年度入学生への説明会を行っているので、その時にはある程度説明ができるようなスケジュールで進めていただきたいと思います。

委員L（公募委員） 令和6年度からの実施ということでしたが、現時点でも住所を変えてまで校区を越えて進学している生徒がおり、行きたい学校へ行けるように来年度からでもできるとよいと考えています。

事務局 この場では結論は申し上げられませんが、教育委員会の中で協議をさせていただきたいと思います。

4. 次回協議会の日程

教育総務課長 次回の委員会についてですが、令和3年6月下旬を予定しております。委員の皆様には、詳細が決まりましたらご案内いたしますので、よろしくお願ひいたします。

5. 閉会 副委員長あいさつ

副委員長 C案の拠点校化で進めていくことが決りました。それぞれ、保護者の立場、先生の立場など、いろいろな意見がありました。総論は決定しましたが、各論になるといろいろな意見が出てくると思います。また、協議してよいものにしたいと考えています。今日は大変ご苦労様でした。

教育総務課長 以上で本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。